

なんと早い梅雨入り。もう少しまぶしい緑の季節を堪能したかった気もしますが、梅雨と新緑という取り合わせも季節感あふれる風景です。

現在会員登録数 3,545 人さま。次号は 6 月 22 日発行の予定です！

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！（休載）

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----■

【1】お知らせ

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のために - 記念寄付のお願い

<特別キャンペーン>を実施中です！

5 月 11 日から 6 月 10 日までの期間中、1 万円以上ご寄付いただいた方全員に、下記の中からおひとつプレゼントいたします。

<1> 富安陽子さんのサイン本 1 冊（限定 30 冊、期間終了後抽選）

<2> IICLO グッズ（イイクロちゃん）全 7 種類セット

<3> 当財団発行の報告集 1 冊

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#special

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

子ども向けに紹介する「YouTube 版 本の海大冒険」（絵本編・読物編・YA 編・科学編、各回 3～5 分）は毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ！」（各回約 30 分）は毎月 10 日に配信しています。

ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしく申し上げます。

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----■
【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Masayo's Talk

『夜明けをつれてくる犬』吉田桃子/著 Naffy/装画 講談社 2021年4月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学5年生の美咲は、人前で話すことが苦手で、約1年前に死んでしまったレオンという犬の骨を見ながら、心の中でレオンに語りかける日々を送っている。学校では卒業式に、大きな声で卒業生を「おくる言葉」を言わなければいけないが、声を出すことができない。そんな中、新しくできた花屋さんでレオンにそっくりの犬を見つけ、花さんと知り合いになったことから、新しい犬を手に入れるための譲渡会に家族で参加することに同意する。

Y：美咲の繊細な気持ちが描かれた作品でした。

M：愛するペットの死を描きながら、感傷的にならずに美咲の気持ちが丁寧に描かれている点がいいと思いました。また、動物に人間の言葉をしゃべらせたりせず、お花屋さんの犬も、譲渡会で出会って飼うことになった犬も、人間とは異なる種として存在しており、そのことが、美咲を勇気づけていることが伝わってきました。

Y：美咲の声が出せない状態を「のどの真ん中あたりにつままっている見えないビー玉」と書かれていてうまいなと思いました。そして、声が出せるようになるためには、多くの積み重ねとタイミングが必要だということがわかるように描かれている点にリアリティを感じました。

M：作品の中で、美咲は自分の気持ちをかなり整理し、言葉化しています。できすぎのようにも受け取れますが、読者はこれを読んで、「ああ自分の感じていたことはこれだったのかな」と思うのかも知れません。そういう意味ではわかりやすさが魅力にもなっています。

Y：譲渡会から連れて帰ってくる犬のサンは虐待を受けていたため、大きな声で鳴くことができません。「声が出ない」という点で美咲と共通しており、美咲がサンを大事に思う気持ちが理解できます。

M：美咲が花屋の葉子さんと仲良くなるという点も作品の魅力です。学校で友だちのいない美咲が地域で異年齢の女性と友だちになる。そして、葉子さんも苦しみを抱えており、二人がその点でつながります。このような友だち関係は、学校しか居場所はないと思っている子どもたちにとって救いになると思います。

Y：家族は美咲のことを心から心配し、また見守っていますが、それでも美咲が自分以外の家族同士の会話や、母の友だちへの電話の内容にショックを受ける姿が描かれています。このことはとても自然に感じました。

M：黒を基調とした表紙絵は都会的でおしゃれです。少し空想的で独特の雰囲気がある挿絵に惹かれて読む読者もいると思いました。

* 今回のゲストは愛知淑徳大学教授の酒井晶代（M）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第69回「けだもの運動会」

「賢治」になっていく

文庫本で4ページと少しのごく短い作品です。タイトルのあとに「冒頭原稿一枚？なし」とあり、おしまいには「以下原稿なし」ともありますから、前もあとも原稿がうしなわれてしまったようです。

書き出しの原稿がないのに、どうして、「けだもの運動会」というタイトルがついているのか。これは、作者の没後に刊行された二番めの全集、十字屋版『宮沢賢治全集』第5巻（1940年）に収録されたとき、仮につけられたのが、そのまま引きつがれているものです。

のこされた原稿は、いきなり、「いかん。貴様が勝つにきまってるじゃないか。第一そんなものは社会の風教に害がある。退れ。」と獅子が狐を叱りつけることばではじまります。運動会でどんな競争をするか、獅子が動物たちからアイデアをみつめているのです。獅子が感服して採用したのは、象の意見でした。

〈これは私の考えでは鉄棒ぶらさがり競争というものはどうだろう。（中略）これならば腕の強い丈夫なものからはからだも重い、腕の弱いものはその代りからだも軽いと、こう云うわけでごく公平だろうと思われる。〉

いよいよ、運動会当日です。楽隊は、ブカブカどンドンやっています。獅子が「鉄棒ぶらさがり競争、用意っ。」「かかれっ。」とさげびます。審判官は、時計をもった豹です。「二十秒。」—虎が落ちます。「四十秒。」—熊が落ちて、いっしょに百匹ばかり落ちました。

「七十秒。」と豹が叫びましたらカンガルーがクルクルクルッとまわって落ちました。」—これでもう原稿がありません。いったい、この運動会はどうなるのでしょうか。私たちは、十字屋版全集の編者がタイトルをおぎなったように、懸命に物語を継ぎ足そうとします。競争というテーマから、「蜘蛛となめくじと狸」や「どんぐりと山猫」を思い出して、作者の考えを補足しようとするかもしれません。私たちは、いわば、「賢治」になっていく体験をするのです。

賢治童話は未定稿が多く、私たちはしばしば「賢治」になりますが、「けだもの運動会」は、その楽しみを大いに味わわせてくれます。（馬車別当）

（本文の引用は、角川文庫版『まなづるとダアリヤ』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 23

太郎々々たん圃
田圃の中に
可哀や 太郎が 泥たんぼ。

たろ／＼たんぼ
田圃の太郎
来たれやほたろが飛んで居る。

たろ／＼ ほたろ
田圃のほたろ
てらせや太郎の来る路を！

（「おとぎばなし 太郎々々田圃」 さゞなみ/作 『幼年世界』（博文館）6巻7号、8号 1916（大正5）年7月、8月）

近代児童文学の祖と言われる巖谷小波（1870-1933）の「おとぎばなし」。前の年、蛍狩りをしていて太郎が田圃に落ちて死んでしまったため、一年後、太郎の回向になるような歌を作って、子どもたちがみんなで歌いながら蛍狩りをする様子を描いています。

蛍狩りをする中に、太郎のいとお玉がいて、大きな蛍の中に太郎の姿を見て追いかけます。すると、まっくらになって、橋のようなものが見えて、橋の上に人間よりずっと大きい、羽根の生えている魔物がいます。お玉が魔物に太郎をさらっていったのかと聞くと、「攫（さら）ひはしないが、誘った事ア誘った」と言い、「私は夜の神の家来の、闇と云ふ魔物なんだ」と名乗ります。

魔物はお玉を蛍地獄にいる太郎のところへ案内し、太郎はお玉に、「蛍つてものは、夜の神様のお気に入り、闇の夜を飾る星の精」だから、「蛍は只眺めてるだけで、けして取るんぢやないと云ふ事を、よく話してあげとくれ？」と言うのです。そして、太郎の姿は消え、お玉は、みんなに太郎の言葉を伝え、村では蛍を取らなくなって、夜の景色が綺麗になったという結末になっています。

私は最近、『幼年世界』の小波作品を読む機会を得ましたが、この作品は、特に、小波が得意な歌、魔物の正体、蛍を星の精に見立てる美しい描写、殺生を禁ずることなど、短い作品の中に、「おとぎばなし」の宝物が多くつまっている作品だと思いました。（Y）

* 旧字は適宜、新字に改めました。

* 『幼年世界』の該当号は大阪府立中央図書館国際児童文学館で所蔵しています。

《4》 行って来ました！

新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、今月は休載いたします。

■ ----- ■

【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

- 追悼展「ありがとう 絵本作家・田畑精一の歩いた道」
昨年亡くなった絵本作家・田畑精一さんの画業を偲び、絵本や紙芝居などの原画や、若いころ制作に関わった人形などが展示されます。
会 場：ギャラリー路草（東京都豊島区）
会 期：6月24日（木）～6月29日（火） 午前11時～午後6時
入場料：有料 高校生以下無料
主 催：「ありがとう 絵本作家・田畑精一の歩いた道」実行委員会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『夜明けをつれてくる犬』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.129 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は6月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

—」 —」 —」 —」 —」 —」 —」 —」 —」 —」
不要不急の外出自粛が続くなか、ホームセンターの種苗コーナーは、このところおおはやり。家庭菜園に加えてベランダ菜園のニーズが急増中のようです。自分が育てた野菜が食べられるという喜びや、ご近所さんや職場の同僚におすそ分けするのも楽しいものです。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
